

日本脂質栄養学会 公開シンポジウム

「コレステロール医療の大転換」

2016年3月20日（日）

お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室
(丸ノ内線「茗荷谷」駅より 徒歩7分)

入場無料、事前申込不要、一般の方も大歓迎

13:00 開場

13:30-13:40

日本脂質栄養学会からのご挨拶 小林哲幸

13:40-15:40 講演

浜崎智仁 「コレステロールは高い方が死ににくい」

板倉弘重 「コレステロールが高い人低い人、どこが違うのか」

奥山治美 「コレステロール低下剤と植物油が心疾患や糖尿病を
発症させる機構」

15:40-15:50 休憩

15:50-16:25 質問／パネル討論 (司会：小林哲幸)

16:30 終了

(敬称略)

このシンポジウムのねらい：

日本脂質栄養学会（コレステロール委員会）はこれまでコレステロールの低下医療には意味がなく、スタチンでコレステロールを低下させるのは危険であると訴え続けてきました。日本では、コレステロール値の高い方が、総死亡率が低いのです。

米国のACC/AHAガイドライン（2013年）も、日本動脈硬化学会が掲げている「コレステロール目標値を設定し、それ以下に保つ」というガイドラインには根拠がない」と発表しました。さらに厚労省もコレステロール摂取量の上限を設けないようになりました。実は、2012年の日本動脈硬化学会のガイドラインに使用されている、「総コレステロール値と冠動脈疾患死の関係を示す詳細なチャート」には、男性ではたったの35例程度の症例しか含まれていないことが判明しています（あまりに少なく、統計学上意味がありません）。このように日本では、コレステロールが危険であるとする根拠が崩壊してきました。新たな考え方が必要です。このシンポジウムでは、テレビでは公表されない重要な情報をご紹介します。

【講演者のプロフィール】

浜崎智仁

(富山城南温泉第二病院、理化学研究所 客員主管研究員、富山大学名誉教授)
千葉大学医学部を卒業後、同大医学研究科、マサチューセッツ工科大学留学、千大第二内科助手、富山医科薬科大学第一内科講師等を経て、富山大学和漢医薬学総合研究所教授(2012年に定年退職)。現在、富山城南温泉第二病院内科に勤務。日本脂質栄養学会二代目会長、魚油の研究など。

本日の内容：コレステロールが高いと、年齢・性別に無関係に長生きする。コレステロール高いとなぜよいか？製薬会社がかける「悪魔の保険」とは？コレステロール低下薬スタチン類は、意味がないどころか、危険。動脈硬化学会のガイドラインは極めて少ない症例で、最重要チャートの計算をしている。など。

板倉弘重

(茨城キリスト教大学名誉教授、芝浦スリーワンクリニック名誉院長)
東京大学医学部医学科卒業後同大学第三内科入局。カリフォルニア大学サンフランシスコ心臓血管研究所リサーチフェロウ、東京大学医学部第三内科講師、国立健康・栄養研究所、茨城キリスト教大学生活科学部教授を経て、現在、茨城キリスト教大学名誉教授、芝浦スリーワンクリニック名誉院長、医療法人社団 IHL 理事長、日本ポリフェノール学会会長、日本健康・栄養システム学会理事長。

本日の内容：血清コレステロール値は 50mg/dL 以下から 500mg/dL 以上まで広く分布している。コレステロールは人体に必須の成分であり、血清コレステロール値に適正値があるのであろうか、適正値を目標に是正することが必要であるか課題である。血清コレステロールはリポ蛋白の形で存在しており、血清コレステロールの量だけではなく、リポ蛋白の質が健康維持の重要な指標となっている。体内コレステロールの3割ほどが脳に存在しており、脳のコレステロール量の低下は健康を傷害する。ヒトは進化の過程のなかで、血清コレステロール値を高める素因を獲得し、現在は 500 人に一人以上という多数の人がその体質を有している。個人の体質素因を考えたコレステロール医療のあり方が問われている。

奥山治美

(名古屋市立大学名誉教授、金城学院大学消費生活科学研究所 客員研究所員、NGO 日本食品油脂安全性協議会理事長)

東京大学大学院修了、薬博。名古屋市立大学薬学部助教授・教授、金城学院大学薬学部教授、米国バイラー医科大学・米国イリノイ大学・大連医科大学などの客員教授、日本脂質栄養学会 初代会長、を歴任。

本日の内容：スタチンはコレステロール生合成を抑えるだけではなく、その中間体のレベルを下げる結果、ミトコンドリア機能を低下させ、抗酸化酵素のレベルを低下させ、むしろ動脈硬化や心不全を促進する。一方、数種の植物油脂はスタチンやワルファリンとともにビタミン K₂ 依存の反応を阻害する。これが動脈硬化、糖尿病、内分泌かく乱、腎障害などを発症させている。